弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため，患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので，お知らせいたします。

臨床研究名称：　切除不能進行・再発胃癌におけるがんゲノムプロファイリング検査導入時期と予後について弘前大学腫瘍内科での解析

研究の目的

がんゲノムプロファイリング検査はがん由来の DNA、RNA を用いて、遺伝子変異から標準治療、臨床試験などガイドラインに示される標準治療以外の治療を検索する目的でつかわれる。適応疾患としては標準治療終了もしくは終了見込みのある固形癌もしくは標準治療のない固形癌とされている。切除不能進行胃癌はガイドラインでは 3 次治療までの標準治療が示されているものの、症例によっては投与中の抗癌剤治療無効時に全身状態が不良のため、次治療に移行できず終了見込みとなる以前に治療が終了してしまうこともある。抗癌剤終了見込みを適切に評価できず、がんゲノムプロファイリング検査を行うことなく、治療終了してしまう可能性があり、早期にゲノムプロファイリング検査を行うことで予後に差が出現するのかについては明確な答えはでていない。ゲノムプロファイリング検査の導入時期による予後について当科での症例を用いて、後ろ向き研究で検討をおこなうことで予後因子の解析を行う。

研究実施期間：　実施許可日～2025 年 3 月 31 日

対象となる方：　2020 年 3 月 1 日～2024 年 8 月 31 日までの間、弘前大学附属病院腫瘍内科を受診し、胃癌/食道胃接合部癌と診断され、がんゲノムプロファイル検査を受けた方

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合，提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、性別、治療期間、治療経過、がんゲノム検査結果について，標記研究のために利用します。

具体的には、がんゲノムプロファイリング検査日時、治療開始日時と最終生存確認日時について、がんゲノムプロファイリング検査をする時期の抗癌剤導入時期が予後の延長に影響する項目に寄与するか統計解析的手法を用いて比較することで、予後の延長に関与する因子を明らかにしたいと思います。

なお，利用に当たっては氏名，住所，電話番号，患者番号等個人を特定できる情報を削除し，本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます），行います。

研究成果については，学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが，その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが，希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について，より詳細な内容をお知りになりたい場合や，試料・情報の利用に同

意いただけない患者さん／その代理人の方は，以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合，当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし，連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は，該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので，ご了承願います。

本件連絡先	腫瘍内科学講座、斎藤絢介　0172-39-5346